

令和元年度 第2回鏡川清流保全審議会 会議録（要旨）

◇日時 令和2年2月19日（水）9:00から11:50まで

◇場所 高知市役所本庁舎6階618会議室2

◇出席者

〔委員〕兼松方彦会長，關伸吾職務代理者，黒笹慈幾委員，奥村栄朗委員，中嶋澄恵委員，堀澤栄委員，松浦秀俊委員，森下信夫委員，吉富慎作委員
（代理委員＝片岡榮彦代理委員（高橋徹委員），森下正夫代理委員（高橋英雄委員））
－以上，委員11名出席で審議会成立－
（欠席委員＝田中求委員）

〔事務局〕 宮村環境部長，今西環境部副部長，児玉環境政策課長，
福富環境政策課長補佐，山中自然保護担当係長，
山崎主査補，山本主査補

- ◇議題
- 1 鏡川清流保全区域指定検討業務の進捗状況について（報告）
 - 2 景観形成区域の検討に係る進捗状況について（意見交換）
 - 3 その他，鏡川清流保全に関する事

【審議事項】

- 1 鏡川清流保全区域指定検討業務の進捗状況について（報告）
- 2 景観形成区域の検討に係る進捗状況について（意見交換）
- 3 その他，鏡川清流保全に関する事

【質疑応答，意見】

- 1 鏡川清流保全区域指定検討業務の進捗状況について（報告）（資料1，2）

質疑応答，意見なし

- 2 景観形成区域の検討に係る進捗状況について（意見交換）（資料3～5）

審議委員： 3つの候補地とも，指定されることを大変重たく捉えているため，指定とはどうということなのかを明らかにしておく必要がある。更に，指定を認定といった言葉に変えることも検討すべきである。

今まで，暮らしと防災と生業とのバランスがとれるのが景観という考えのもと景観形成区域について考えてきた。しかし，住民には，景観という考え方が分かりづらく，どちらかを取らないといけない，景観を取ったら負担がかかるのではないかという考えになっている。今後，住民にどういった伝え方をすることも検討が必要である。

景観形成区域の指定は，鏡川清流保全計画の施策体系の景観の保全・形成の柱に関わるが，景観だけで考えるのではなく，さまざまな施策を重ね合わせる必要がある。

審議委員： 候補地の住民に対して深く聞き取りをし，問題の洗い出しをしっかりとすること自体が意義のあることである。候補地の住民から聞き取った内容は，県

内の多くの集落が抱える問題であり、上手く課題にアプローチすることができれば、大きなケーススタディとして他の地域にも影響を与えることができる。景観形成区域の指定はあくまで手段であって目的ではない。目的は、その地域の人たちがこれまでと同じようにいきいきと暮らせるための方法を探ることである。

坂口と領家については、地区に外から人が入り、今一生懸命やっている人をサポートしたり、場合によっては、先頭に立って引っ張ったりといった応援が必要である。そういう外の人たちをどのように確保するかという視点も必要である。

審議委員： 地域でのイベントの参加者をお客さんではなくてサポーターにしなくてはならない。はじめは楽しんで帰っていくというのでもよいが、その先に地域のサポーターになることを狙った取組が必要である。

暮らしを継続することで美しい景観が形成されるという仕組が成り立たなくなってきている。暮らしの継続のために住民の今の暮らしをサポートすることも必要だが、楽しいイベントを企画して市街地の人を呼び込むことや、さらにそこで暮らしたい人を呼び込むことも考えなくてはならない。

これは、景観形成区域の取組から始まったことだが、高知市としてコンパクトシティを進めるなかで取り残される中山間地域が陥る潜在的な問題が出てきたものであり、環境政策課だけの施策で解決することはできない。おそらく里山保全審議会などからも同じように他課と共に取り組む必要がある問題が出はじめているだろうから、環境政策課が先陣を切ってもらいたい。

その地域のために動ける人を地域に貼り付けることができたらよいのではないか。

審議委員： 関係人口にもいろいろな種類がある。

暮らしが必要だが、地域に住むことだけが暮らしではない。下流域に寝泊まりして、昼間は上流域に行くことも暮らしと考えることができる。今は、そこに住んでいる人に固執しすぎている。地域の人たちを無視するわけではないが、もっと違うタイプの関係人口もあるのではないか。

審議委員： 坂口と領家は、30 数万人の都市がすぐそばにあり、外からの新しい人の流れを作れる可能性が大いにあるため、具体的にどのようなことをすれば人の流れを作ることができるか検討してもらいたい。

また、この問題を自分事にする人がもっと増えていかないといけない。約3,000人いる高知市役所職員にこの問題を共有すれば、面白いテーマだと感じる人が必ずいる。また、自分の仕事のなかで応援できる要素はないかを庁内で考えてもらうような場を環境政策課が中心になって立ち上げて、そこに若くて体力のある発想の柔軟な庁内の人たちを集めて地区に入っていくというのは一つの方法ではないか。

審議会を領家や坂口で持ち回りでやったり、審議会に地区の人たちに来てもらうというのも面白い。

審議委員： 吉原で行われていたそうめん流しのイベントによって、鏡地域でも関係人口の

素晴らしさは実感されていた。しかし、そうめん流しが終わってしまい、その原因分析はされていない。

一方、坂口は、景観形成区域の候補地として地域の人からの聞き取りをしっかりとやり、課題や今後の方向性が示されている。坂口の住民に聞き取りをしたことで、住民が改めて自分たちの地域が置かれている現状や課題を認識できた。これでやっと地慣らしができたのではないか。

市として、中山間地域を持て余しており、どういった施策をすればいいのか分からなくなっているのではないか。条例改正を検討するなかで市の体制も考えてもらいたい。

審議委員： 社会貢献を意識した関係人口を考える必要がある。仕事としても関わられる市職員が先陣を切って参加し、市民が参加しやすい環境を作ったり、学生に勉強として地域に入ってもらいなど仕組みづくりを具体的に進めてもらいたい。

審議委員： なにかをやらなくてはいけないという前提から地域に入ると、住民が負担感を抱いたり、今の生活を侵されたくないと感じることがある。まずは住民との話し合いや意見交換をして、そこで出た問題や意見を環境政策課がまとめ、市でできることを他部署に提案したり一緒に考えたりしないといけない。

集落自体をどうするのかという問題に向き合わなければ景観は守れない。

審議委員： 地域の重要課題について聞き取りをして、それを市の組織に戻し、各課に振っていくことが求められるが、これはどの部署が対応すべきか。

事務局： それぞれの地域の困りごとに対応している土佐山地域振興課や鏡地域振興課と一緒に対応することになるが、他の部署との連携の前に、まずは関係部局と地域の現状について共有し、地域の目指すべき将来像を一致させておく必要がある。

審議委員： 課長クラスや係長クラスの職員がこの問題について議論する場はあるか。

事務局： 各部局の副部長が出席する企画調整会議の下に部会を設け、広く課題や施策を検討する場合もある。

ただ、議論の入り口で必要になる課同士や係同士の議論については、個人的なつながりに任されている部分が大きいのが現状である。

審議委員： 30代くらいの若い職員に、自分たちがやっている仕事が本当に高知市の地域の人の役に立っているのかということを実感してもらうための実践の場が必要である。

高知市がどうやって生き残るかは、若い世代の人がどう考えるかにかかっているのだから、庁内で考えてもらいたい。

審議委員： 景観を守ることは、そこに住む人たちの暮らしを守ることであり、すべてのことに関わってくる。

坂口などの中山間地域の問題に本気で取り組むことは、市職員としての一番の危機管理である。中山間地域の崩壊によって起こることを放置すると、手の付

けようのないことになる。

住民に、景観ではなく自分たちの暮らしを守るために市が動いてくれていると感じてもらうことが大切である。

審議委員： 地域課題が明らかになったので、その課題の解決策について検討するところから入っていくことができないか。具体的にいうと、坂口地区では山の荒廃が課題になっているが、今年度から森林環境譲与税がスタートしており、来年度、市町村には、当初計画の約 2.1 倍のお金が入ってくる予定である。市内の関係課と森林環境譲与税について協議してもらいたい。

ただ、資金が入っても、担い手の問題や地権者の課題がある。所有者の了解を得る際に地域の方に関わっていただくことで、土地は持っているけれど地域から出ている方との関わりも出てきて、場合によっては、今まで故郷への関心が薄れていた方に関心を深めてもらうことができるかもしれない。

また、木を伐採する際には、生業をやられている信頼できる方をお願いすることで、業者と地域とのつながりができ、場合によっては、山の木の伐採以外のことでも関わっていただくが増えるかもしれない。

このように、地域課題を解決するなかで、外部との関わりを増やしていくこともできるのではないか。

審議委員： 先日、里山保全審議会の関係で指定里山等をいくつか見て回ったが、手入れができていなかった山を手入れして住民に見せることによって、最初は冷やかかだった住民の態度が変わったという事例があった。坂口地区の場合は、地域全体に危険性があるということだが、目に見える変化があれば、住民の気持ちが少し前向きに変わるのではないか。

審議委員： 森林救援隊のように柵田救援隊のようなものをつくって、職員がそこに入ることはできないか。

また、定年後に農業を始めたい人を募集して、提供できる地域の畑を耕してもらうようなことを始めてはどうか。

審議委員： 景観形成区域の候補地は、大学のキャンパスから非常にアクセスがよい場所にあるので、大学の豊富な人材を上手く活用すべきである。しかし、そのためには地区の窓口を構え、市役所がその窓口と大学とをつなげなくてはいけない。

そういうことを重ねて地域の自力をつけ、イベント等に広げていけばよいのではないか。

審議委員： 県では、課題解決研修として、土佐山の地域課題について現場を見ながら考えるという内容の研修を実施している。高知市でも、坂口地区の地域課題について考える研修を実施すれば、坂口地区にとっても、職員にとってもプラスになる。

3 その他、鏡川清流保全に関すること

審議委員： 鏡吉原地区で石灰石の開発の話があると聞いたが、情報はるか。

事務局： 鉱山開発の計画があることは聞いている。この件の市の窓口である商工観光部から、計画が実施された場合の法規制や環境への影響等について質問があったため、環境部からは鏡川の水量に係る影響等について回答した。しかしながら、市としての正式な方向性はまだ出ていないため、情報が集まり次第、改めて審議会で説明する。

審議委員： 南国市の奈路鉱山や白木谷鉱山の周辺の川には生物がいなくなっており、自然環境の面から不安がある。

また、プラントから発生する粉塵の飛散や泥流の流出、大型トラック通行の危険性などの懸念材料もある。

環境部として早急に情報を仕入れてもらいたい。